

#### 第四回萬國林業試驗場組合總會ノ概況

一九二一

萬國林業試驗場組合ハ林業試驗ノ進歩發達並ニ完成ヲ期セントスルノ目的ヲ以テ成立セルモノニシテ其方法トシテ各國ニ於ケル林業試驗ノ成績ヲ公ニシ試驗地ヲ實視シ試驗方法ヲ協定シ或ハ出版物ノ交換等ヲ爲スニアリテ西曆千八百九十二年ニ創立セラレ其第一回總會ハ千八百九十三年奧太利維也納市ニ第二回總會ハ獨逸國ウイスバーテンニ第三回總會ハ千九百年ニ瑞西國ニ於テ開設セラレタリ昨年九月其第四回總會ヲ奧太利維也納市ニ於テ開設セントスルニ當リ當該會長奧太利帝國森林參事官長「フリードリッヒ」ヨリ我國モ亦之レニ加入センコトヲ勸誘シ來リタルヲ以テ昨年七月山林局ノ名ヲ以テ公然之レニ加入セシカ今其第四回總會ノ概況ニ就テ當時同國留學中ノ市島直治ヨリ有益ノ報告アリシヲ以テ爰ニ之レヲ載ス

第四回萬國林業試驗場組合總會ハ奧太利國々立林業試驗場ノ所在地「マリアブルン」(維也納府ノ西郊)ニ開催セラレ八月三十日ヨリ九月五日ニ亘リテ兩度ノ會議及ヒ「ホツホ、シュネーベルグ」「ウイナー、ノイスタット」ノ町有ナル「グローセン、フエーレン林」及「ウイナー」ワルドニ於ケル各種林業試驗地ノ視察ヲ行ヒタリ(當初ハ「ベーメン」國ニ於ケル地方林業試驗地視察ノ計畫ナリシモ試驗地被害ニ罹リタル爲中止セリ)

八月三十日(日曜)「グラン」ホテルニ於テ參列者ノ面議會ヲ開キタリ

八月三十一日(月曜)快晴

參列者ハ八時二十五分迄ニ一同「マリアブルン」ニ參集シタリ即其人名ハ次ノ如シ

普國林務官試補「アレント」(客員)

「マリアブルン」林業試驗場技師「ベエーメレー」

「チユービンゲン」大學教授「ドクトル、ビユーラー」

「マリアブルン」林業試驗場技師「ドクトル、チスラー」

比耳義國森林監督官「クラエー」

普國林務官補「ドクトル、デングラー」

瑞西中央林業試驗場長教授「ドクトル、エングラー」

匈牙利國森林參事官長教授「フエケテ」

奧太利國林業試驗場長宮中參事官「フリードリッヒ」

瑞西林業試驗場技師「フルーリー」

「バイエルン」國建築技師「ハルトマン」(客員)

奧太利國農事試驗場技師「ドクトル、ホツペ」(客員)

日本材學士市島直治(客員)

奧太利國營林主事「ヤンカ」

「サキセン」國樞密參事官教授「ドクトル、クシツ」

奧太利國林業試驗場技師「リブルマン」

「アイゼンナツ」ハ「森林參事官教授、マーテス」

「ミュンヘン」大學教授「ドクトル、マイアー」

「ペートルスボルグ」森林學校教授「モロソッフ」

「デンマルク」國大林區署長「ドクトル、ミュルラー」

普國樞密參事官教授「ドクトル、ミュットリツヒ」

那威國「アース」森林學校教授「ミールホルド」

「サクセン」樞密參事官「ドクトル、ノイマイスター」

丁抹國林業試驗場長教授「ヨッバルマン」

白耳義國「サンフーベル」森林保護長「ボーレー」

「ミュンヘン」大學教授「ドクトル、ラマン」

奧太利國森林參事官「シッフエル」

「バーデン」國森林參事官長教授「シーフェルト」

匈牙利國森林參事官「ソルス」

英吉利農務省書記官「ドクトル、サンマービル」

匈牙利國「シエムニツ」林業試驗場長森林參事官長教授「バーダス」

奧太利國森林參事官「ウイルチュ」(客員)

八時四十五分會長官中參事官「フリードリッヒ」氏開會ヲ告ケ一場ノ挨拶ノ末目下咽喉病ニ罹リテ發音難澁ナルヲ以テ副會長森林參事官「シッフエル」氏ヲシテ會長ヲ補助シ尙ホ必要ノ場合ニハ代ハリテ其職掌ヲ行ハシメンコトヲ求メ一同直チニ之レニ同意シタリ

次ニ森林參事官「シッフエル」氏起立シテ挨拶ヲナシ且ツ告クルニ本日ハ奧國農務大臣臨席ノ筈ナリシカ餘儀ナキ支障ノ爲メ代理トシテ森林參事官「ウイルチュ」氏ノ臨席セラレタル旨ヲ以テシ一同ニ代ハリテ謝辭ヲ述ヘタリ

森林參事官「ウイルチュ」氏即起立農務大臣ノ代理トシテ會長ノ懇篤ナル挨拶ヲ謝シ且ツ農務省ハ林業試驗場ノ研究ニ向テ常ニ有益ナル成績ヲ認ムルト共ニ更ニ此事業ノ進歩ヲ望ムコトヲ告ケ終ニ此會ノ好結果ヲ以テ終ランコトヲ希望シタリ

次ニ會長ヨリ本會議書記ノ職務ヲ森林主事「ヤン」氏及普魯西國林務官試補「アレント」氏ニ推任センコトヲ諮リテ可決  
次ニ會長ハ前會千九百年以來逝去セラレタル本會々員ノ姓名ヲ報告セリ即チ

普國々林長「ドクトル、ダンケルマン」

瑞西國「チューリッヒ」高等工業學校教授「ブールジエオワ」

「チューヒンゲン」大學教授「ドクトル、ローライ」

即チ一同ハ用意ヲ表センガ爲メニ起立セリ

是ニ於テ日程第一、「前總會以來ノ經過及事務ノ報告」ニ移リ會長ハ即萬國林業試驗場組合トシテ新ニ白耳義、丁抹英吉利、以太利、日本、魯西亞及匈牙利ノ林業試驗場ノ加入ヲ報セリ

日程第二、「萬國林業試驗場組合規約ノ變更」提出者官中參事官「フリードリッヒ」氏説明シ次テ會議ニ移リ各條討議ノ結果別紙萬國林業試驗場組合處務規程ノ如ク決議セリ

日程第三、「間伐及受光伐ノ試驗實行案」

提出者「シュワツパツハ」……………「エーベルスワルド」

「エンゲラー」……………「チューリッヒ」

「ペーメルレー」……………「マリアブルン」

第一席、「ペーメルレー」氏ハ詳細間伐及受光伐試驗ノ實行ニ關シ現在實行案改正ノ必要ナル所以ヲ陳述シタリ

第二席、「シュワツパツハ」氏ハ千九百一年「チュービンケン」及千九百二年「ギーセン」ニ於ケル獨逸國林業試驗會議ニ於テ決議シタル

新實行案ヲ提出シ詳細之レヲ説明セリ

第三席、「エンゲラー」氏ハ間伐及受光伐試驗ニ關シテハ大體ノ標準ニ依リ各自適當ナル方法ヲ採用スヘク從テ此處ニ新實行案ヲ決議スルノ必要ヲ認メスト論シ其大體ノ標準トシテ別紙ノ如キ實行案ヲ提出シタリ

此兩提案ニ關シ討議ニ移リ會長「フリードリッヒ」及「ビュラー」、「マイアー」、「ノイマイスター」ノ諸氏互ニ意見ヲ聞ハシ長時間ノ後「シュワツパツハ」氏ノ動議ニ就キ衆議ニ諮フコトナリタリ即チ會長ハ

「萬國林業試驗場組合總會ハ會員ニ向テ組合獨逸林業試驗場會議ニ於テ決議セラレタル間伐及受光伐試驗實行案ヲ採用シ該試驗ヲ實行セラレンコトヲ望ム」

ト朗讀シ之ヲ指名法ニ依リテ贊否ヲ問ヒタリ

其結果ハ贊成十七名不贊成六名中立七名

即チ「シュワツパツハ」氏ノ提案ナル

「間伐及受光伐試驗ノ實行規程」

ハ可決セラレタリ

終リニ「マイアー」氏ノ要求ニ依リ該案不賛成者ノ姓名ヲ明舉スレハ次ノ如シ

「ビュラー」「エングラー」「フルーリー」「マーテス」「マイアー」「ラマン」ノ諸氏

日程第四、「森林學圖書目錄ノ編纂案」

時間ノ都合ニ依リ次回ニ延期セラル

日程第五、「森林ト水トノ關係問題ニ對スル委員會ノ報告」

「エーベルマイアー」……………「ミュンヘン」

「ミュットリツヒ」……………「エーベルスワルド」

「ビュラー」……………「チュービンゲン」

「ホツベ」……………「ウキン」

會長ハ「エーベルマイアー」氏カ目下病氣ニテ出席スル能ハサルヲ以テ教授「ビュラー」及建築技師「ハルトマン」ノ兩氏同氏ノ代理ト

シテ委員ヲ受任セル旨ヲ告ケ「ビュラー」氏ヨリ一ニ會長ニ求ムル所アリ

其順序ハ次ノ如ク定マル

「ミュットリツヒ」「ホツベ」「ハルトマン」「ビュラー」

第一席、教授「ミュットリツヒ」、森林ガ空中下降物量ニ關スル影響試驗ニ就テ報告セリ

第二席、「ホツベ」、森林内ノ地中ニ導カルル下降物即雨又ハ雪ノ下降量ニ就テ講演シタリ

第三席、「ハルトマン」、森林及無立木地内ニ於ケル地下水ノ狀態及流動ニ關シテ實驗ノ結果ヲ報告シ同時ニ數多ノ圖表ヲ掲ケテ説

明ヲ照對シタリ

此時既ニ午後三時半ヲ告ケタルヲ以テ本日ノ會議ハ之レニテ閉會ヲ告ケ別席ニ於テ晝餐ヲ爲シ次ニ「マリヤブルン」林業試驗場内

ノ陳列品及試驗方法等ヲ順覽セリ即左ノ如シ

會議室内外ニ陳列セルモノハ

建築材料試驗器械ノ模型

宮中參事官「フリードリツヒ」氏考案ノ

一、生長測定器械

二、同 自動裝置

三、活力量測定器

自動「キシロメートル」

宮中參事官「フリードリッヒ」氏考案ノ測樹裝置四種  
輪尺

種子撰擇器

播種器械

造林用穴堀器械

計算器械

「デンドロメートル」

晴雨計、濕氣計、寒暖計ノ種類

藥液撒布器數種

唐檜ノ生長狀態標本(「ホルムアルテヒート」中ニ浸シタルモノ)

黑松林内落葉腐敗ノ徑路ニ關スル研究ニ就テノ標本

松脂ヲ採集セル黑松ノ生長狀態ヲ示セル材鑑

有用樹種ノ材鑑

諸種ノ圖簿

#### 一、生長徑路圖

二、埃國ニ於ケル定置試驗地及森林氣象觀測所

三、各所試驗地(間伐試驗)森林ノ寫眞

四、千九百三年八月一日ニ於ケル定置試驗林ノ林相

五、間伐、受光伐、森林内牧場ノ落葉採取、灌水、施肥等ノ試驗並ニ其度合ニ對スル成績表

「フリードリッヒ」氏考案 二様ノ生長測定器

「ホツペ」氏森林氣象研究ノ報告

「チスラー」氏ノ唐檜及落葉松種子ノ遺傳性ニ關スル研究

「チスラー」氏ノ各所ノ疎林内ニ生セル植物ノ調査

間伐各程度ノ生長狀態ヲ撮映セル寫眞(即間伐前後トノ樹冠ノ狀況ヲ撮映セルモノ)

次テ林業試驗室ヲ縱覽ス

第一、化學的試驗室ニ於テハ淡水魚運搬用ノ器械(主任技師「ローレンツ」氏ノ發明)

水道用ノ木片ニ藥液ヲ注入セル標本

## 各種樹木ノ灰分試験

第二、木材工藝的試験室、此室ニハ木材性質試驗器械、木材ノ彈性硬度ヲ測定スル器械ヲ主任「ヤンカ」氏實地ニ運轉シ其作用及成績ヲ示セリ此室ニハ各種木材ノ試験ヲ施セル標本ヲ數多陳列セリ

第三、造林試験室ハ種子試驗植物分布圖其他各種ノ試験成績等ヲ示セリ

次ニ「チスラー」氏ノ嚮導ニテ試體苗圃ニ至ル

種子ノ遺傳性ニ本ツク生長比較試験

植栽距離ノ比較試験

濕氣試験

庇蔭試験

間伐試験（地力保護ノ爲メニ頭伐トス）

外國樹種ノ試験

樹冠ト根トノ鈞合試験

等ヲ觀察ス

又此園ノ中央ニ於テハ氣象試驗ヲ施行セリ

此時紀念トシテ森林參事官「シツフェル」氏ハ一同ヲ撮影シ更ニ林業試驗場ノ前面ニ屬スル植物園ヲ見ル此處ニハ内外ノ樹種ヲ植栽シ尙ホ菩提樹、落葉松、唐檜等ノ各樹ニ宮中參事官「フリードリッヒ」氏ノ發明ニ係ル自動生長測定器械及樹木ノ活力測定器等ノ裝置アリ其成績ハ既ニ同氏ノ著述ニ依リ季節、日時、氣象ノ變化ニ應スル生長狀態ヲ公ニセリ

此他縱覽スヘキモノ多ケレトモ時既ニ六時三十四分ニ達セルヲ以テ本日ハ之ニテ終會ヲ告ケラレタリ

九月一日（火曜）快晴

午前八時「ハウプトツアルアムト」ヨリ「プツフベルグ」行ノ汽車ニ投シ九時三十分同所ニ着尋テ登山用ノ齒輪鐵道ニ乘リ替ヘ漸次山路ヲ駛走シ午前十時五十五分高雪峰ニ達ス此日天氣晴朗ニシテ遠近ノ山勢判明タリ途中亦種々ノ林相ノ變化、地質ノ生成狀態等ニ注意スルコトヲ得タリ

高雪峰「ホテル」ニテ各自晝餐ヲ爲シ午後徒步ニテ山況觀察ヲ試ム

抑モ雪峰ト稱スルハ下埃太利州ノ最高點ニシテ石灰岩アルプス山（大アルペン山）ノ支峰ニシテ地層主トシテ石灰岩ヨリ成立スルヲ以テ名ツクトモ云ヒ高雪峰「クレーシユネーベルグ」「ホイグースト」及「アルベル」ノ四山ヨリ成立ス

高雪峰ハ其凸起狀態ヨリ次ノ如ク別ル

「リユックスボーデン」

海面上高一八〇一メートル

「ワツクスリーゲル」

「クロースターワッペン」

全 一八八四メートル  
全 二〇七五メートル

高雪峰ノ谷合ハ有名ナル維也納府水道ノ水源地ニシテ即チ「ヘルレン」谷ノ帝泉ト稱スルモノナリ  
山頂「クロースターワッペン」(二〇七五メートル)ニ達スル間四方ノ光景、位置、地勢、地質、高山樹木及所謂高山植物ノ状態等趣味多ク且

ツ有益ニ觀察スルヲ得タリ

山頂ニ於テ「ドクトル、チスラー」氏ハ高雪峰ニ於ケル植物分布ノ状態ヲ説述セリ  
其要左ノ如シ

唐檜ハ

南側第一、一六一〇メートル「マテ」然レモ通例ハ一五五〇メートルナリ

第二、一六一〇メートル「マテ」

第三、一七六〇メートル「マテ」

落葉松ハ

南側第一、一五五〇メートル「マテ」

最上、一六二〇メートル「マテ」

白樺ハ最上、一六一〇メートル「マテ」

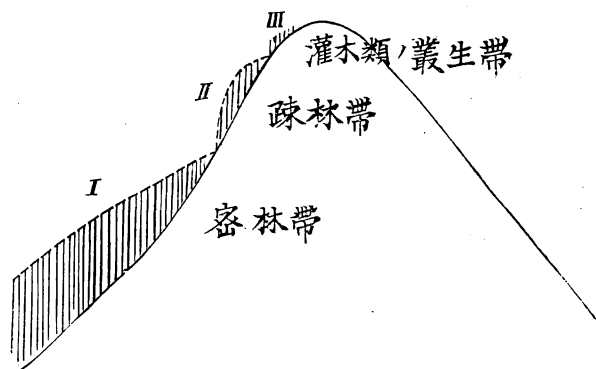
黒松ハ最上、一四五〇メートル「マテ」但シ唐檜、山毛櫸等ヲ混生ス

松ハ最上、一四四〇メートル「マテ」

山毛櫸ハ樹木狀ヲ爲シタルモノハ一四五〇メートル「マテ」但混交状態

山櫛ハ最上、一四五〇メートル「マテ」

「ナ、カマド」ノ一種ハ最上、一七〇〇メートル「マテ」



岳松ハ

南側 一九七七メートル「マテ」

東側 一九六九メートル「マテ」

北西側 一九四五メートル「マテ」

南西側 一九四三メートル「マテ」

西側 一八九九メートル「マテ」

北側 一八六メートルマテ  
平均 一九一六メートルマテ

然リト雖トモ通例ハ平均高ヨリ

南東側ニテハ 六〇メートル較高

東側ニテハ 五三メートル較高

北西側 二九メートル較高

南西側 二七メートル較高ニシテ之レニ反シテ

西側ニテハ 一七メートル

北側ニテハ 五二メートル較低シ

山頂斷岩創立セル處アルベンドールト稱スル小鳥飛群シ且ツ此邊白雪宿ホ堆ヲナスヲ見タリ

大體ヲ周覽シテ再ヒ先驛ニ着シ午後五時高雪峰驛ヲ發車約一時間ニシテ「プツフベルグ」村ニ達シ一同此處ニ宿泊ス

九月二日 (水曜) 快晴

夙起五時半發ノ汽車ニテ「ウルシエンドルフ」村迄乗車此村ヨリ一同馬車ヲ聯ネテ「ウイナーノイスタット」町ノ共有ニ屬スル大松林ト稱スル森林ニ到ル

抑モ該村ハ其以前ハ小部分ノ森林ヲ除クノ外ハ農地若クハ秣地ニシテ且ツ其森林ハ只狩獵ノ目的ヲ以テ維持セラレタルノミナリシガ女皇マリヤテレシヤノ時代ニ追ヒウイナーノイスタット町ニ賜ハリ次テ千八百五十六年地域ノ確定成リ舊式ノ施業法ニ依リテ之ヲ經營シ今猶ホ之レヲ繼續セリ此附近ニハ尙ホ小個々ノ私有林アリ

面積 九九〇町

地勢 平林 最高三一六メートル  
最低二九一メートル

地質 上層ハ石灰質礫土ニシテ朽土ヲ存スレトモ次層ニハ堅硬ナル混集岩ノ地層アリ此故ニ土壤一般ニ乾燥シ植物ノ根育ヲ妨クルヲ以テ不良ナリ

林況 黒松ヲ主トシ雜フルニ赤松、唐檜及其他雜木ヲ以テス

今試驗地視察ノ狀況ヲ述フレハ次ノ如シ

試驗地視察前「ウイナーノイスタット」町民代表者我等一行ヲ歡迎シ技師「ペーメル」氏一同ニ代リテ挨拶シ夫レヨリ直チニ「落葉採收試驗地」ニ入ル

此試驗地ハ毎年採收、五年採收、無採收トニ別チ既往二十年間ノ試驗成績ヲ示シ一々成績表ニテ比照セシメタリ(案内書參抄)  
此處ニ教授「ラマン」氏地層ヲ檢分シ



新ル地層ニ於テ落葉ノ採否ハ殊ニ著シク林木ノ生長ニ差異ヲ與ヘサルコトヲ説明セリ

林中蘚苔ノ生長ヲ見ルニ落葉無採收地最モ伸育セリ然レトモ蘚苔ノ林木生育ニ及ホス影響ニ關シテハ是又一箇ノ問題ナリト云

フ  
次ニ

「黒松林ニ於ケル種々ナル度合ノ間伐試験」ヲ觀察ス

第一 A、弱キ間伐

第二 B、中央度ノ間伐

第三 C、強間伐

第四 D、千八百九十二年迄ハ強間伐ヲ行ヒ目下ハ第三ノ八割九分ノ割合ヲ以テ受光伐ヲ行フ

即以上ノ四區域ニ別チテ各五年置ニ間伐ヲ施セリ且其年度各林域ニ於ケル測樹標準木ニ各種ノ色別ニテ胸高部ニ色輪ヲ施セリ

此他各林地ニ下生スル苗ノ數モ年々ニ計算シテ之レヲ表掲セリ

次ニ目下樹齡五十七年林ニシテ各一町宛ヲ有スル第一、第二、第三、三種ノ比較間伐試験地ヲ觀察ス

此觀察ニハ主任技師ベームレル氏説明シ試驗方法及成績等ニ關シテハ觀察者各自ノ經驗ニ比照シテ議論モアリ批評モアリ頗ル

有益ニ觀察ヲ進ムルコトヲ得タリ(但シ觀察ノ日程ハ多キヲ以テ一箇所ノ時間ハ從テ多カラサレトモ試驗地ノ觀察法ハ之ヨリ以

後モ大體如斯ニシテ進行セリ)

次ニ再ヒ

「落葉採收試験地觀察」

此試驗法ハ前者ト同斷コ、ニ教授ミユルラー氏地質ヲ檢シテ説明セリ即チ此林地ノ大部分ハ沖積層ノ成立ニシテ地表六〇センチ

メートル迄ハ石灰質礫土ナレトモ其次層ニ混集岩ノ硬層一〇センチメートル許アリテ之カ植物ノ根育ヲ妨クル原因トナレリ

加フルニ土壤乾燥シアルヲ以テ元來ハ唐檜ニ適スル所ナルモ爲メニ適良ノ結果ヲ得難カルヘシトノ主意ナリ此處ニ於ケル朽土

ハ既ニ二年ヲ經過スル落葉ヨリ相當ニ成立シツツアルヲ示セリ

次ニ觀察シタルハ林地改良試驗ナリ

a、施肥試験

之ハ落葉採收地ニ補肥トシテ石灰燐酸及窒素等ノ施肥ヲナシ以テ其結果ヲ試驗スルモノニシテ其要點トシテハ肥料代ト施

肥費トノ合計カ其採收セル落葉代價以內ナラサルヘカラス例ヘハ此地方ニテハ落葉(一町步)ヨリ五年毎ニ一五〇クローチ(一

クローチハ凡我四拾錢)ヲ獲得シ得ル平均ナレハ之レカ施肥代ハ一町步ニ付キ約七〇クローネヲ費スモ差別八〇クローチヲ

リス之レニ依リ若シ肥料ノ效果カ落葉ヲ地皮上ニ殘スト同シキモノトスレハ經濟上寧ロ落葉採收ハ其地方ノ狀況ニ應シテ

差支ナキノミナラス却テ一箇ノ林利トナルヘキコトヲ認メ得ヘシ此レ即此試驗ノ眼目ナリトス  
此外以上三種ノ肥料中何レカ最モ此黒松林ニ適スルカモ亦試驗ノ一ニ屬スト説明セラル主任技師「ドクトル、ローレンツ」氏説  
明)

#### り、「灌漑試験」

此林地ハ大體乾燥シ居リテ林木ノ生育大ニ妨ケラレ居ルヲ以テ灌漑試験ヲ其一部ニ施シタリ

其試験法ハ附近ノ小川ナル「フオイエルバツ」ヘルヨリ狭キ溝渠ヲ堀リテ縦横ニ林内ニ導キ稀雨ノ場合ニ方リ灌水セシムルモ  
ノナリ灌漑區域ト隣シテ無灌漑區域ヲ造リ以テ兩者樹木ノ生長ヲ比較スルニ俟ス(此處ニハ唐檜及米國五葉松トヲ植ヘテ其  
生長ヲ比較セリ)

此試験ハ技師「ペーメル」氏ノ主任ニ屬シ一々説明ヲ與ヘラレタリ

是ヨリ「ドクトル、チースラー」氏ノ嚮導ニ移リテ造林試験地ヲ視察スルコトナリヌ即其大體ノ視察事項ハ

第一、植孔ノ堀リ方ト植付器具トノ試験

第二、米國「バンキシアナ」松ノ試験

樹齡十四年

植附數 五三九ニシテ二五〇ヲ存ス

平均高 三メートル良好ナルハ五メートルニ達ス

此試験地ニ就キ教授「マイアー」氏ハ林地利用並ニ「バンキシアナ」松及五葉松トノ利用上ノ價值トヲ顧慮シテ試験スルヲ  
要スト説明セリ

第三、灌水ニヨリ唐檜ト黒松トノ生長試験

第四、唐檜種子ノ遺傳性試験即チ

此ニ用ヒタル苗木ハ「マリアブルン」試験苗圃ニ育生セシメタル三年生ノ苗木ニシテ目下ハ九年生、

種子ノ產地ハ「アルトバーテル」山(境國「シユン」州)ニシテ五一〇メートル、八六〇メートル及一一四〇メートルノ高

サヨリ採收シタルモノ及ヒ瑞典產唐檜ナリ

第五、產地ヲ異ニセル種子ノ黒松造林試験

造林地方ヲ方形ニ區劃シテ試験シタリ其結果ハ既ニ多少見ルコトヲ得即チ產地ノ遠隔ナルモノ及ヒ高山地方ノ緩慢

ナル生育ヲ有スル母樹ノ種子ヨリ生シタル苗木ハ生長頗ル遅ク郷土ニ近クシテ其母樹ノ良生育ヲ有スルモノノ種子

ヨリ得タル苗ハ著シク前者ヨリモ仲育セルヲ見タリ

之ニ加フルニ亦唐檜ノ一種「ピチャプン」ゲンス」ヲ試験セリ

其目的ハ此木ノ乾燥地ニ於ケル適否ヲ驗センガ爲メナリ

以上視察後一同「ヤーゲルハウス」ニ車行シ同所ニ於テ「ウイナー」ノイスタットヨリノ鑾應ニ預リ簡樸ナル宴會ヲ開カル宴中同町代表者ノ挨拶演説「ドクトル、ジュワツパツハ」氏之ニ對シテ演説次テ「ドクトル、ヂスラー」及森林參事官長「ノイマイスター」氏等ノ演説アリテ宴會大ニ振フ十二時半再ヒ此處ヲ發シ國有林「ウイナー」ノイスタット「小林區内」ヲツフエンパツハ「ノ試驗地「アウエルベルグ」ニ向フ森林參事官「ペーメル」氏森林管理廳ノ名ヲ以テ來集者ノ一同ニ謝シ且説明スル所アリ此處ニ視察セル試驗地ハ即チ

#### 受光試驗

山毛櫨ノ喬林(九十五年)ニ於テ一八九二年以來I, II, III, VI度ノ受光伐生長ヲ比較試驗シ林下ニハ白樺ヲ栽植シ尙野獸ノ防害ノ爲メ「ブリキヲ冠シ(樹梢ニ



ヲマク)及麻絲球ニ鹿角油ヲ濕シテ之レヲ幼樹ニ纏ヘリ

歸路「ツフエンパツハ」林ノ麓ニテ一同「ウイナー」ノイスタット町ヨリノ隨行種子商「スタイナー」ナルモノノ撮影ニ應シ其レヨリ馬車ニテ砂塵ヲ侵シテ同町停車場ニ向ヒ午後五時十五分ノ汽車ニテ維也納ニ歸着ス

九月三日(木曜)快晴

此日ヨリ維也納林ニ於ケル試驗地視察

朝フルケルスドルフ「小林區管内」ノ「ガブリック」ニ至ル維也納大林區署長官中參事官「チーケルパウエル」氏ハ森林ニ入ルニ先チテ一同ニ挨拶シ森林參事官長「ノイマイスター」氏之ニ答禮シ夫レヨリ試驗地ノ視察ヲ爲ス技師「ペーメル」氏ノ嚮導ニテ山毛櫨ノ喬林ニ入リ「受光伐試驗」ヲ視ル

此林ハ海面上四三〇メートルノ維也納砂岩ノ上ニ成立シ林齡七十年之ヲI, II, III, IV度ノ四區ニ別チテ試驗セリ

此生長試驗ト共ニ間伐後幾年ニシテ再ヒ樹冠ヲ閉鎖スヘキカノ問題モ亦一種ノ試驗ニ屬ストノ説明アリ

此試驗地ニ於テ一八九五年春以來林下ニ生育スル林地内植物ノ研究ヲ爲シツツアリ尙一八九九年秋以來更ニ受光伐ヨリ結果セル「化學的光度」ノ研究ヲ始メタリト云フ

次ニ山毛櫨ノ幼林ニ入リ各種ノ度合ニ於ケル間伐及高間伐トノ連合試驗ヲ見ル

此試驗地ハ天然ノ更新ニ依リテ成立セル山毛櫨ノ幼林ノ密生狀態ヨリ漸次間伐シ行クモノニシテI, II, III, IVノ區域ニ分チ

尙II, III, IVニ於テハ高間伐ヲ施セリ次ニハ同シク此幼林ニ入リ

「間伐初度」ノ適當期試驗「之レモ四區ニ分チテ年度ヲ異ニシテ間伐シ尙區ヲa, bニ分チaニハ幼木ヲ高ク伐リテ(胸高位)ニ於テハ根元ヨリ伐採ス即チ此目的ハ急激ナル林木閉鎖ノ破壞狀ヲ加減シ以テ地力ノ保護ニ供セラルヘキヤ否ヤヲ試驗スルニ在リ

次ニ「バイルスタイン」ニ於ケル「外國樹種造林試驗地」ヲ視ル

此林地ハ北向ニシテ海拔三五〇メートル乃至四五〇メートルノ處ニアリ一般ニ肥沃ノ砂質壤土ニシテ所々砂岩ヲ加フル

ノミ

今其主ナル試驗樹種ヲ舉クレハ次ノ如シ(主任「チスラー」氏ノ嚮導ニ依ル)

試驗樹種名	樹齡	平均高	摘 要
西班牙落葉松	五年	一五センチメートル	露國農務省苗圃ヨリ
「アルベン」落葉松	五 "	七七 "	春芽ハ前者ヨリ晚ク生ス
米國「ドグラス」梅花柏	五 "	二〇 "	生長良
「バルサム」樅	七 "	二九 "	生長迅速
「ノルドマン」樅	七 "	四〇 "	
「バルサム」樅	一〇 "	七五 "	野獸ノ害ヲ受ク
日本花柏	一〇 "	一二五 "	
米國扁柏	一〇 "	一五〇 "	野獸ノ害多少アリ及ビ菌害アリ
米國「チツコ」	一〇 "	一五〇 "	乾燥地生長不良、濕潤地枯縮、肥沃地良、怡生長良適
米國「ビヤクシン」	九 "	一三〇 "	蟲害アレトモ生長良適
日本落葉松	一〇 "	四、五「メートル」 最高七「メートル」	
米國「白カリヤ」	一〇 "	一「メートル」(但濕潤地)	
同「カリヤ」ノ一種	一〇 "	至二〇センチメートル	
印度松	九 "	(但乾燥地) 二「メートル」	不良

以上ヲ視了シ再ヒ間伐試驗地ニ至ル

「山毛榉喬林」ノ間伐試驗

現齡六十二年一八九〇年ヨリ間伐ヲ開始シI、II、III級ニ別チ可ナリ集約的ニ且樹測モ出來ル丈精密ニ行ヒツツアリ  
林内ニ於テ冷肉冷酒ノ響アリ

此林相ノ鬱閉度ヲ間伐前後ノ閉鎖狀態ニ依リ以テ樹冠ノ間伐後再ヒ閉鎖セラルル有様ヲ示サンカ爲メ林内ニ上向ノ寫眞ヲ撮影セルモノ數十枚撮影者宮中參事官「フリードリッヒ」氏自カラ之レヲ説明セラレタリ

此林内ニ於テモ「林内植物及化學光線強度」ノ試驗アリ

林内ニ休憩スルコト暫時ニシテ「ハウエルスターグ」ノ造林試驗地ニ至ル此處ニハ「晚櫛」ト普通櫛トノ比較造林試驗アリ即チ此兩者ノ發芽ノ遲速ニ因リ霜害ニ對スル關係ヲ試驗セントノ目的ナリ此結果ニ依リ晚櫛ハ普通櫛ヨリ發芽略三週間ヲ遅ルルヲ知レリ

(即五月末發芽)

次ニ唐檜ノ造林試驗地

此試驗ノ目的ハ植栽距離ノ大小ニ依リテ生長ノ狀況ヲ研究スルニ在リ

一八九二年生苗ヲ植栽 現齡一五年

面積番號	面積	間隔及植方	本數(一町ニツキ)	開闢ヲ完成セル年度
I	四八町	一メートル平方	一〇、〇〇〇	一八九八年
II	四六〃	一、五メートル平方	四、四四〇	一九〇二年
III	四六〃	一「メートル」ト二「メートル」ノ方形	五〇〇〇	一八九九〃 一メートルノ刻
IV	四八〃	二「メートル」平方	二、五〇〇	一九〇四〃 二メートルノ刻

次ニ南獨逸產落葉松ト「アルプス」產落葉松トノ試驗地ニ導カル

年齡一六年ニシテ現在ニ於テハ平均二メートル以上

枝ノ擴張 「アルプス」產ハ南獨逸產ヨリ 大

針葉東ノ開展季節 「アルプス」產ハ 幾多早シ

落葉季節 「アルプス」產ハ 遲シ

此他尙菌害ニ就キ研究中

又場所ト方向トニ因リ樹形ト樹冠トノ關係狀態ヲ研究中ナリト「ドクトル」チースラー氏説明セラレタリ

次ニ視タルハ「カルバー」テン產及瑞典產唐檜造林試驗ニシテ

次ハ日本種落葉松ノ造林試驗即

一八九八年三月七〇〇〇本ノ苗木ヲ山毛櫸ノ更新地ニ植栽シ現齡八年生ニシテ樹高平均四メートル最高五メートル以上

ニ達シ其成績良好ナレトモ只野獸及菌害(アカリクスメリウス)ノ害ヲ受ケ易シ

唐檜種子ノ遺傳的性質ニヨリ造林上ノ成績比較

此處ニ又米國「チヅ」コ「西比利亞」樅、米國樅、米國砂糖櫟、櫻ノ一種、エンケルマン唐檜、ブンケンシス唐檜、米國榊花柏、日本種落葉松「ラウツン」

扁柏等ノ試驗造林地ヲ觀察ス

以上視了ノ後再ヒ「ギブリツツ」ニ至リテ大林區署ノ饗宴ニ臨ム席定マリ大林區署長「ミユルレル」氏ハ維也納大林區署及此地ノ小林區署ノ爲メニ祝盃ヲ傾ケ宮中參事官「チーグル」バウエル氏一同ニ向テ祝盃演說之レニ次テハ敕任參事官「フホンシエルツ」氏現會長宮中參事官「フリードリッヒ」氏ニ向テ多大ノ盡力ヲ謝シ同氏之レニ答ヘ盛大ナル宴會ニ於テ各充分ニ歡ヲ盡シテ八時歸途ニ就ク

九月四日(金曜)快晴 此日ハ「プツケルスドル」フ及「デュル」チルバツハ小林區署管内ニ設ケラレタル試驗地觀察

朝プツケルスドルフニ至リ第一着ニ將來ノ主伐收穫ニ用ユヘキ林木育成ノ爲メ他ノ劣木優木ヲ共ニ間伐シ之レヲI II III IVニ別  
チテ試験スルモノヲ見ル

次ニ山毛櫸林ニ至リ此幼林ノ間伐開始ノ遲速ヨリ結果スル狀況試験ヲ視ル

以上視了シテ一旦プツケルスドルフノ旗亭ニ至リテ間食ヲ爲シ十時半森林參事官シユツフェル氏ニ導カレテ山毛櫸トシデトク混  
交林ニ入りテI II級間伐試験ヨリ結果スル收穫比較試験(收穫表調製)ヲ視ル

是ニ於テカチユルエルパツハニ進ミ同所ノ白樺林ニ於ケルI II III級間伐ヨリ起リ來レル收穫比較試験地ヲ見ル

此次ニハ又厩橋ノ幼林ニ於ケル間伐開始ノ試験ヲ視ル

以上視了ノ上再ヒプツケルスドルフニ歸リ設ケノ旗亭ニ於テ會食ヲ開カレ席上ドクトル、エングラ一氏、プルケルスドルフ及チニ  
ルレンパツハノ兩小林區署及御獵場午後拜觀スヘキ諸役人ノ爲メニ祝盃ヲ舉ケ次テ森林參事官、ペーメルン氏之レニ答ヘ會終リ  
テ一同又々馬車ニテ御獵場ラインゲル動物園ニ向フ

#### 維也納在帝國動物園

當御料狩獵地ハ十八世紀ノ半ニ於テ創始セラレ其時代ニハ東方及南方ノ一部ハ塀欄ヲ以テ區劃セラレタルノミナリシカー一七八  
一年ニ於テ全ク現形ト同様トル御獵地ヲ構成スルニ至レリ其全周ハ九十邊形ヲ有シ全長二四、二キロメートルニ連ル又其全面積  
ハ二五七六町ニシテ其内八〇プロセント樹林地一八、五プロセント草生地ニシテ主林木ニハ山毛櫸、樺及白樺アリ副木トシテハ種  
々ノ雜木ヲ生セリ然レトモ尙後主木トシテ育成ヲ目的トスルモノハ山毛櫸及樺ナリトス

以前ヨリ存立スル老樹林ハ一八八六年以來劃伐的ニ利用セラレ更新地ハ同時ニ下種伐ニヨリテ保護育成セラレツツアリ數多ノ  
野獸ノ害ヲ慮リ堅硬ナル板塀ヲ施シ前年ヨリ針金柵ヲ造リタリ

狩獵地管理ハ最上狩獵管理廳ノ下ニ森林主事及二人ノ宮内主獵主事及宮内省獵官若干ヲ置ケリ

野獸ノ種類(本年春調)

「エーデルウイルド」 三四〇頭

「ダムウイルド」 一六〇〃

「シユルツウイルド」 三〇〇〃

「ムツフロシヤーフ」 八〇〃

「ヒルジニア鹿」 一五〃

「ミューネンシャーフ」 若干

我輩萬國林業試驗組合總會列席者ノ一行ハ馬車ニテ四方ノ地勢林況若クハ其間ニ嬉戲群遊スル野獸ヲ見テ深ク興味ヲ感シツ  
ツ廣闊ナル丘陵ニ上リ隅密森林參事官長ノイマイスタ一氏此宏大形勝ナル狩獵地ヲ領シ給フ所ノ獵君ニ向テ三度ワイドマンシ

ヤイルヲ唱へ一同之レニ和シタリ之ヨリ更ニ栗樹ノ並樹ヲ過キツツ難宮ノ壯觀深渠野獸ノ棲息所ヲ眺メ充分ニ有益ナル觀察ヲ爲スコトヲ得之ニテ全ク當大會ノ實地旅行ヲ結了シタリ

九月五日(土曜快晴)

八時十分、マリアブルン林業試驗場ニ參集ス

八時三十分會長代理森林參事官シツフェル氏開會ヲ告ケシハルツエベルグ公爵閣下、樞密參事官ドクトル、エーベルマイエル及大林區署長ハウラネックノ諸氏ヨリノ祝電ヲ朗讀シ

日程前回ノ續キ森林ト水トノ關係ニ就テ委員ノ報告ニ入ル第一席教授ドクトル、ビュラー氏ハ地表ヲ流ルル水ト地下ニ浸入スル水トノ分量及速力ニ就テ講演スルコト一時間餘、

演說中埤國農務大臣代理林業部長ドクトル、フライヘル、フランベック氏入場セラレ會長ノ挨拶ニ次テ同氏ハ林業試驗組合ニ望ムトノ題ニ就テ長演說ヲ試ミタリ次ニ

建築技師ハルトマン氏ハ再ヒ第一會議ノ講演ヲ補充セリ

之ニ關シテ教授ラマン氏ハ浸入水及地下水ノ觀察ヨリ得タル要事ヲ教授ドクトル、マイアー氏ハ融雪ヨリ流出スル水ニ關スル觀察ヲ森林參事官長シーフェルト氏ガ都市ノ水道ヲ引用スルコトヨリ結果スル林木生育上ノ關係ニ就テ何レモ簡明ニ其意見ヲ述ヘラレタリ

次テ此問題ニ關シテ諸家各自ノ意見ヲ語ラントシ議場大ニ活氣ヲ生シタリシガ既ニ長時間ヲ經過シタル上日程尙ホ頗ル多キヲ以テ衆議ニ諮リ次回迄委員繼續スルコトニ決シタリ

委員ハ前ノ如シ

樞密參事官教授ドクトル、エーベルマイエル

教授ドクトル、ビュラー

建築技師ハルトマン

技師ドクトル、ホツベ

樞密參事官教授ミユットリツヒ

此時既ニ十一時半ヲ報ス

次ニ前會ニ於テ延期トナリタル日程第四(前回ノ殘)森林學圖書目錄ノ編纂ヲ開議ス

技師フルーリ氏先ツ圖書目錄編纂法ニ基キテ編成セル森林學圖書ノ編成案ヲ示シ且之ニ建議案ヲ具セリ之ニ對シ技師ベエーメル氏ニ簡短ニフルーリ氏建議案第二項ヲ削除センコトヲ主張シ次テ教授ノイマイスター、ビュラー、ラツベルマン、モロソッフ、シュリッパツハ、ナスラーノ諸氏各意見ヲ陳述シ議論容易ニ盡キサルヲ以テシュワツパツハ氏ハ次ノ動議ヲ起シ多數決

即、

萬國林業試驗場組合會ハ森林學圖書ノ編纂方法及要件ヲ研究センガ爲メ之ヲ委員ニ附托ス  
委員ハ次ノ如シ

技師「ベエーメル」

技師「フルーリ」

樞密參事官「ノイマイスター」

之ニテ晝餐トナリ休憩後午後一時四十分再ヒ開議

副會長森林參事官「シツフェル」氏章程第十條ニ依リ日程第一ヲ、教授「ドクトル、シユワツパツハ」ニ、日程第二ヲ樞密參事官「ノイマイスター」ニ、日程第三第四ヲ、勅任參事官「フランシエルツ」ニ委任シテ會長ノコトヲ行ハシメンコトヲ諮リ異議ナク可決續テ「シユワツパツハ」氏着席（會長席ニ）始メテ第二議案ノ日程第一「主要林木分布ニ關シテ研究成績ノ報告」

獨逸帝國ニ於ケル林木ノ分布報告ハ「ドクトル、デングラー」氏之ヲ講シ即チ赤松、唐檜、樅、落葉松、山櫟、山毛櫸、ヒ、ラギノ一種ノ水平的分布ニ關スル研究ヲ二葉ノ植物帶圖ヲ頒テ參照セシメタリ

第二席、教授「フエテカハ」匈牙利ニ於ケル主要樹種ノ分布ヲ講述シ大ナル圖幅ヲ擴ケ高タトラ山ニ於ケル唐檜ノ生長限界ヲ各方角ニ依リテ區別シタリ

第三席、技師「ドクトル、チスラー」氏ハ埃太利帝國ニ於ケル主要樹木ノ水平的及垂直的分布ノ狀況ヲ講シ數多ノ分布圖ヲ參考ニ供シタリ

此問題ハ更ニ研究ヲ續クベキ問題ニシテ本日は時刻モ移リタレハ之ニテ終講トナレリ

日程第二、「歐洲ニ於テ他國產林木ノ栽植試驗」

第一席、教授「マイアー」氏ハ既往ノ外國樹種試驗ノ成績ヲ報告シ結局其結果ノ郷土產樹種ヨリ其カラサル主意ヲ斷論シ尙外國樹種試驗ニ關スル五要項ヲ建議セリ

第二席、「ドクトル、サンマービル」氏ハ英國ニ於テ試驗セラレタル外國樹種松柏科ノ生育狀態ヲ講述シ其詳細ハ別冊トシテ列席者ニ配布セリ

第三席、「ドクトル、ナスラー」氏ハ時間ノ短キヲ慮リ二三ノ要點ヲ述ヘ且ツ或種ノ外國種ハ埃國ニ於テハ比較的長結果ヲ示セル（「マイアー」氏ノ説明スル）實例ヲ舉ゲ意見ヲ副ヘタリ

此日程モ亦時間缺乏ノ爲メ討論ノ餘裕ヲ容レサルヲ以テ「シユワツパツハ」氏ノ動議ニ依リテ採決ニ附セラレ其結果前四項ハ賛成セラレ第五項ハ「シユワツパツハ、マイアー」氏等ノ協議ノ結果提出者「マイアー」氏自身之ヲ撤回シタリ

以上ヲ以テ本日ノ日程第二ハ終了セルカ此時會長宮中參事官「フリードリッヒ」氏日程第三林木種子ノ遺傳性ヲ試驗センカ爲種子



ノ共同採取ノ方法及日程第四林区署ノ需要ニ對シ其質ノ種子ヲ供給スルノ方法ハ時間缺乏ノ所以ヲ以テ今回ハ之レガ討議ヲ見合スルコトヲ諮リ同時ニ該問題ノ講演者タリシチスラー、マイアー、ノイマイスター、ノ諸氏ハ厚ク其勞ヲ謝シ引續キ該問題ノ委員タランコトヲ建議シ續テチスラー氏曰ク此委員會ハ出來得ル迅速カニ開會シ成ルヘク此秋季ノ種實季ヲ利用シテ此結果ヲ會員ニ報導センコトヲ主張セリ

斯クテ此兩建議案ハ滿場異議ナク可決セラレタリ

日程第五、第五回萬國林業試驗場組合總會ノ時季及場所組合會長及副會長ノ選舉、之レニ關シ會長宮中參事官、フリードリッヒ氏第五回總會ヲ白耳義國「ブリュッセル」府ニ開キ同國水林局長ヂュボア氏ヲ會長ニ水林監督官クラエー氏ヲ副會長ニ推撰シタキ旨ヲ建議シタリシカ滿堂一致ヲ以テ之レヲ可決シタリ

茲ニ於テ乎白耳義國代表者クラエー氏ハ此議決ニ對シテ列席一同ニ向テ謝シ且ツ次會ニ於テハ出來得ル丈ノ勞ヲ致シテ會員諸君ヲ歡迎センコトヲ陳述シタリ

次ニ年額會費ヲ章程第五條ニ依リテ定ムルコトナリ、バーダス氏ノ建議ニ依リ指名採決ノ結果年額二五マルク、死ト決定シタリ

以上議了ノ後會長宮中參事官、フリードリッヒ氏ハ列席者一同ノ勞ヲ謝シ、幸福ナル再會ヲ期スヲ以テ第四回萬國林業試驗場組合總會ノ終局ヲ告ケタリ此日ノ日程ニテハ、シエー、ンブルン、園ヲ拜觀ノ都合ナリシモ時刻ノ移ルヲ以テ見合トナレリ

此夜、グラントホテルニ於テ祝宴ヲ開カレ農務大臣代理トシテ林業部長ドクトル、フライヘル、フホン、ベック氏臨席セラレ會長宮中參事官、フリードリッヒ氏ヲ始メ一同壯大ナル食卓ヲ圍ミ宴酬ニシテ、ドクトル、シュワッパツハ氏、天皇陛下萬歲ヲ祝シ一同杯ヲ

舉ケテ之ニ和シタリ、次ニ收任參事官、フロン、シエルツ氏ノ農務大臣及代表者ニ向テ祝盃ヲ傾ケタリ

林業部長ドクトル、フライヘル、フラン、ベック氏ハ林學界ノ進歩ト研究トニ對シテ賀意ヲ陳ヘ次ニ森林參事官、シッフエルハ本會ニ臨ミタル賓客ニ向テ謝シ大林區署長、ドクトル、ミユルラー氏ハ宮中參事官、フリードリッヒ氏ニ向テ、森林監督官、クラエー氏ハ(佛語)

埃國森林官ニ向テ、教授、ドクトル、エンクラ、ラー氏ハ「マリアブルン」林業試驗場役員ニ向テ何レモ祝盃ヲ舉ゲテ其厚意ヲ謝シ、ドクトル

チスラー氏ハ宮中參事官、フリードリッヒ氏及「マリアブルン」林業試驗場役員ノ名ヲ以テ之ニ答謝シ次テ、ドクトル、サンマー、ビル氏

ハ英、萬國林業試驗場組合ノ爲メニ祝杯ヲ舉ゲ、技師、ベエ、メルン氏ハ組合設立以來本會ノ功勞者ニシテ既ニ逝去セラレシ諸君

ノ爲ニ吊懷シ次デ余ハ日本語希望ニ應ジ教授、マイアー氏通辨ノ約ナリシヲ以テ親厚ナル款待ヲ謝シ尙會長宮中參事官ノ爲メニ

萬歲ヲ捧ケタリ次ニ教授、フッヘルマン氏ハ「美哉維也納市」ノ爲メニ祝盃ヲ舉ゲ、斯クテ此愉快ニシテ壯麗ナル祝宴會ニ於テ一同滿

足ト欣喜トヲ以テコノ幸福ナル第四回萬國林業試驗場組合總會ノ納會ヲ祝スルヲ得タルハ實ニ斯學ノ進歩ト知識ノ世界共通ヲ樂

ム衆心ノ一致アレハナリ

一、會議ハイヅレモ勉強シテ行ハレタレト何レノ問題モ時間ノ乏シキ爲メニ充分ニ論シ盡スニ至ラス當日程中最後ノ二問題ハ全ク次回ニ延ハサレタリ併シ時間ヲ伸ハシテモ論シ盡サシムルト云フコトハ議場ノ整理上困難ノコトニシテ且ツ討論バカリカ主旨ニモアラサルヘク委員ニテ研究ヲ續クル如キハ一良法ト云フヘシ尨ニ角専門家ノ斯學ニ忠實ナルヲ視ル

報告會ノ方法ハ示名ノ講演者講演ニ上ホリテ各自研究ノ結果ヲ報告シ其後ハ討論トナリ參列者モ之ニ對シテ意見ヲ陳述シ或ハ賛否ニ加ハル

二、實行視察旅行ノ日程モ亦多キニ過キタレトモ日程ノ如ク全部視了セリ尤モ初ノ視察ニハ種々ノ批評、説明、議論アリテ容易ナラサリシカ同シキ種類カ多キ故自然ニ進行早カリキ之レニハ全日快晴ノ好都合アリタレハナリ之レニモ専門家ノ熱心ハ見ルニ足レリキ

三、造林試驗ハ「マリアブリン」林業試驗場ノ成績大ニ衆人ノ參考ニ資セラレタリ

外國樹種移植ニ對スル教授「マイアー」氏ノ斷案ハ同氏本來ノ意見ナレトモ未タ議論ノ盡キサルコトアリ且時間ノ缺乏ノ爲メ論戰ヲ續クル能ハサリシハ遺憾トス

四、間伐受光伐ノ試驗モ獨逸派(國モ)ト瑞西派トノ兩議ニ分レ一方ハ新實行案ヲ主張シ後者ハ之レニ反對シ瑞西派ニハ「ミューンヘン」派及前ノ「チユーリツヒ」教授「ビユーラー」氏之レニ屬シ論戰大ニ勉強メタルガ結局ハ新實行案可決セラレタリ

五、森林氣象試驗ハ講演者ノ議論精細ニ亘リ研究モ進歩セル如ク考ヘラル併シ尙研究ヲ續ク可キ問題ナリトテ委員附托此問題ノ研究ニハ「マリアブリン」ノ林業試驗場ハ比較的不完全ナリシ

六、木材工藝的試驗「マリアブリン」ニ於テハ建築材料試驗器械ヲ以テ施行シタル成績多シ併シ總會ノ日程ニ此方ノ問題ナキハ遺憾ト考フ

七、前會長宮中參事官「フリードリッヒ」氏ハ病ヲ勉メテ能ク職務ヲ盡サレタリ

八、學術上ノ議論ノ外ハ互ニ相互ノ研究ヲ助ケ合フ如クニシテ世界共通ノ意味ニ合ス

九、次回ハ「ブリッセル」其次ハ「ブダペスト」ナランカトノ話アリ我日本國ニ於テモ他日萬國林業試驗總會ヲ開キテ我力豐富ナル森林ノ狀況ヲ示サンコトハ正ニ吾人ノ希望ニシテ林業試驗場ノ發達ハ既ニ世界共通ノ意味アルコトヲ考ヘサルヘカラス以上ヲ以テ當萬國林業試驗場會議ニ對スル所感ノ概畧トス

西曆千九百三年於奧太利維也納

林學士 市島直治